遥けくも偉大なるかな 足引きの手稲の峰よ

な

黄昏の山並を愛ず 山際に映えては著しいまでも か た夕陽は沈み

稜 線 の美しさ永遠に

今^き 日ぅ 、 は 日の夢明日は 人の世は移み は空し いやすく Ē

人気無き小道歩かば 風ぜ 並み いざ守らむ真理の灯 に舞え に湧ける 0 木き 日の路に Iの 愁れ は へ飄 飄学徒 7孤高の思い 黄なが 金が い を誘う 量に映えて

思^ぉも 我がます 仰ぎ見む悠久の天 ずや遠き故郷 (む道を照らさむ は 北 いいの星を

咲さけ

木村 \mathbb{H} 口拓 政 明 君 君 作 作 詇 \oplus